

■ 概況

8/1~8/7のNYMEX・WTIIは、51.09~55.66ドルの範囲で推移した。

8月8日は、米中摩擦への過度な不安が後退、サウジがOPEC各国と減産強化を電話協議したとの報道で4日ぶりに反発。9月限終値は前日比1.45ドル高の52.54ドル。週末9日は、安値買いが入り、米国リグ稼働数も6週連続の減少で続伸。IEA月報の需要見通しの下方修正の影響はなかった。9月限終値は前日比1.96ドル高の54.50ドル。週明け12日は、ユーロ高・ドル安に伴う割安感、ファディル・クウェート石油相のOPECの減産遵守発言で3営業日続伸。9月限終値は前週末比0.43ドル高の54.93ドル。13日は、米国は対中制裁関税第4弾のうちクリスマス関連商品等の除外を発表、米中摩擦緩和への期待感から大幅続伸。9月限最終値は前日比2.17ドル高の57.10ドル。14日は、EIA原油在庫週報は前週比160万バレル増と市場予想に反する2週連続の積み増し、また、米国債の長短金利が逆転する逆イールドが発生、景気減速の予兆であるため、売り込まれ、5営業日ぶりに反落。9月限の終値は前日比1.87ドル安の55.23ドル。

8月15日は、逆イールドの影響による前日の米国株価が今年最大の下落を受け、続落。9月限終値は前日比0.76ドル安の54.47ドル。週末16日は、前日までの反動の買い戻しが入り、3日ぶりに反発。9月限終値は前日比0.40ドル高の54.87ドル。週明け19日は、イエメンのフーシ派が17日サウジ東部シャイバ油田をドローン攻撃したと発表、緊張の高まりから続伸。9月限終値は前週末比1.34ドル高の56.21ドル。20日は、米国は中国企業ファーウェイに対する一定の取引を認める例外措置延長を発表、米中摩擦が和らぎ、わずかに続伸。9月限最終値は前日比0.13ドル高の56.34ドル。21日は、地政学リスクの高まり、EIAの原油在庫週報も前週比270万バレル減と市場予想を上回る3週ぶりの取り崩し報告があったものの、製品在庫の増加で大きく反落。この日から中心限月と

なった10月限の終値は前日比0.45ドル安の55.68ドル。

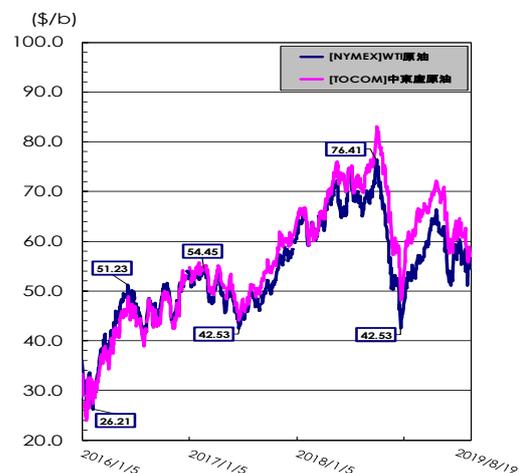
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（10月渡し）は8月1日~7日の間57.70~63.00ドルの範囲で推移した。8月8日57.00ドル、9日56.90ドル、13日57.60ドル、14日59.80ドル、15日58.20ドル、16日58.00ドル、19日58.40ドル、20日59.20ドル、21日59.80ドルで推移した。

為替は8月1日~7日の間105.86~109.27円の範囲で推移した。8月8日106.11円、9日106.02円、13日105.43円、14日106.37円、15日106.05円、16日106.15円、19日106.41円、20日106.65円、21日106.36円で推移した。

財務省が8月19日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、7月下旬の原油輸入平均CIF価格は、44,929円/klで、前旬比317円安、ドル建てでは65.97ドルで前旬比0.73ドル安。為替レートは1ドル/108.29円。また、同日の貿易統計（速報・月間）によると、7月の原油輸入平均CIF価格は、45,724円/klで、前月比4,413円安、ドル建てでは67.31ドルで前月比5.77ドル安。為替レートは1ドル/107.99円。

そのような中で、8月13日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.5円の値下がり、軽油は同0.4円の値下がり、灯油は同2円の値下がり（18%ベース）だった。ガソリンは3週連続の値下がり、軽油は2週連続の値下がり、灯油は2週ぶりの値下がりだった。この週（8月第2週）の原油コストは大きく値下がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、3.0円~3.5円の値下げに分かれた。また、8月19日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.6円の値下がり、軽油も同0.6円の値下がり、灯油は同5円の値下がり（18%ベース）だった。ガソリンは4週連続の値下がり、軽油は3週連続の値下がり、灯油は2週連続の値下がりだった。この週（8月第3週）の原油コストは値上がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、全社0.5円の値上げとなった。

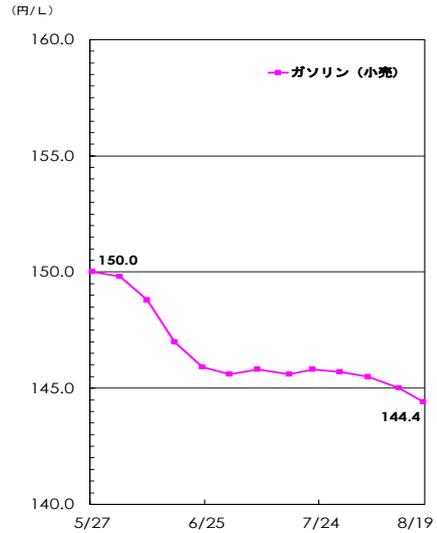
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	8/11 ~ 8/17	3,491 ▼ -127	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	89.1 ▼ -3.3	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	8/17	12,447 ▼ -1,243	▲ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	8/19	57.35 ▲ 0.72	▼ -12.8
	WTII原油 (NYMEX) (\$/bbl)	8/19	56.21 ▲ 1.28	▼ -10.2
	原油CIF単価 (\$/bbl)	7月下旬	65.97 ▼ -0.73	▼ -10.71
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	44,929 ▼ -317	▼ -8,489
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	108.29 ▼ -0.45	▲ 2.46
	外国為替TTSレート (¥/\$)	8/19	107.41 ▼ -0.98	▲ 4.15



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/11 ~ 8/17	991 ▼ -30	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	1,053 ▲ 18	▼ -	
	輸出	"	1 ▼ -72	▼ -	
	在庫	8/17	1,417 ▼ -63	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/13 ~ 8/19	55.4 ▼ -1.2	▼ -10.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/13 ~ 8/19	53.0 ▲ 0.2	▼ -11.1
		(TOCOM/中部)	8/19	53.8 ▲ 1.0	▼ -10.9
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/19	144.4 ▼ -0.6	▼ -7.5	

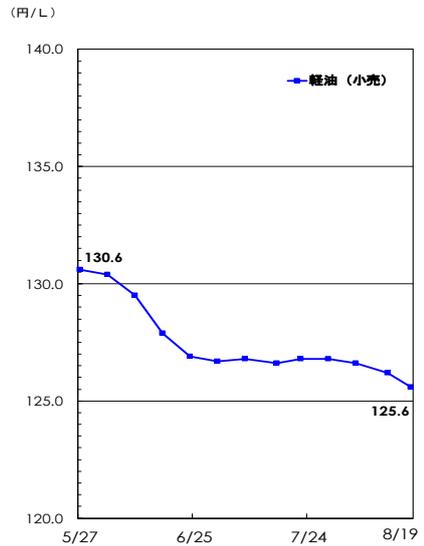
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

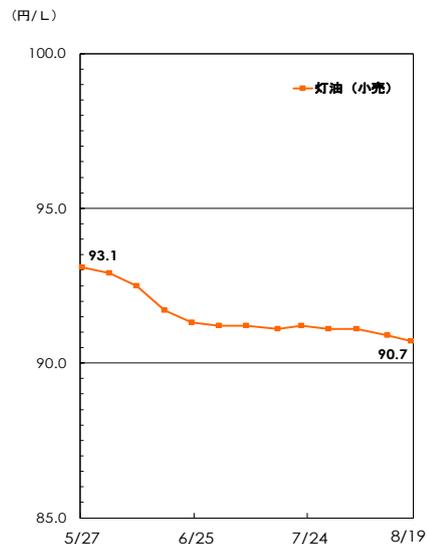
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/11 ~ 8/17	693 ▼ -110	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	295 ▼ -375	▼ -	
	輸出	"	100 ▼ -5	▼ -	
	在庫	8/17	1,797 ▲ 299	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/13 ~ 8/19	58.5 ▼ -2.3	▼ -9.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/13 ~ 8/19	61.6 ▼ -1.1	▼ -6.7
		(TOCOM/中部)	8/19	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/19	125.6 ▼ -0.6	▼ -5.1	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/11 ~ 8/17	183 ▼ -72	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	20 ▼ -59	▼ -	
	輸出	"	0 → 0	▼ -	
	在庫	8/17	2,213 ▲ 162	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/13 ~ 8/19	57.2 ▼ -1.1	▼ -9.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/13 ~ 8/19	54.7 ▼ -0.2	▼ -10.6
		(TOCOM/中部)	8/19	56.5 ▼ -0.5	▼ -9.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/19	90.7 ▼ -0.2	▼ -2.3	



■ 関連情報

1 海外/原油

8月21日のNYMEX市場WTI原油は、フシ派はイエメン南西部で米軍無人機を撃墜と発表、さらに、イランのロウハニ大統領は原油輸出が止まった場合国際航路の安全航行を保障しないと発言するなど、地政学リスクが高まる中、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、原油が前週比270万バレル減と市場予想を上回る3週ぶりの取り崩し報告があったにもかかわらず、製品在庫の増加が、ガソリン同30万バレル増、中間留分同260万バレル増と市場を予想を上回る増加の報告により、反落した。9月限の終値は前日比0.45ドル安の55.68ドル、10月限の終値は前日比0.31ドル安の55.49ドル。

EIAによると、8月12日時点のガソリンの小売価格は、前週比6.4セント値下がりの1ガロン2.624ドル(74.1円/ℓ)、ディーゼルは同2.1セント値下がりの3.011ドル(85.0円/ℓ)となった。また、19日時点のガソリンの小売価格は、前週比2.6セント値下がりの1ガロン2.598ドル(73.6円/ℓ)、ディーゼルは同1.7セント値下がりの2.994ドル(84.9円/ℓ)となった。ガソリンは5週連続の値下がり、ディーゼルは6週連続の値下がりだった。

なお、ベーカーヒューズ社によると、米国の稼働陸上石油掘削機は、9日764基で前週比6基減、17日770基で同6基増で、7週振りの増加。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2019年8月11日～8月17日に休止したトッパー能力は0.0万バレル/日で、前週に対して変化はなかった。(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は349.1万klと、前週に比べ12.7万kl減少。前年に対しては20.5万klの減少。トッパー稼働率は89.1%と前週に対して3.3ポイントの減少、前年に対しては5.3ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてジェットが増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/2.9%減、ジェット/31.2%増、灯油/28.2%減、軽油/13.7%減、A重油/32.0%減、C重油/19.8%減。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比0.5万kl減)。軽油の輸出は10.0万kl(前週比0.5万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではガソリン、ジェットが増加となり、その他の油種で減少となった。前年比ではA重油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は105.3万kl(対前週1.7%増)と3週連続で増加となり、32週振りに100万klを上回った前週に続き、2週連続で100

万klを上回った。ジェット10.4万kl(対前週150.5%増)、灯油2.0万kl(対前週74.3%減)、軽油29.5万kl(対前週56.0%減)、A重油10.4万kl(対前週43.0%減)、C重油12.6万kl(対前週23.8%減)。

(単位:千kl)

	今週 (8/11 ~ 8/17)	前週 (8/4 ~ 8/10)	前週比	
ガソリン	1,053	1,035	▲ 18	(2%)
ジェット燃料	104	42	▲ 62	(148%)
灯油	20	79	▼ -59	(-75%)
軽油	295	670	▼ -375	(-56%)
A重油	104	182	▼ -78	(-43%)
C重油	126	165	▼ -39	(-24%)
合計	1,702	2,173	▼ -471	(-22%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

8月17日時点の在庫は、ガソリンが取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては、灯油、軽油、C重油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは141.7万kl、前週差6.3万kl減。前年に対しては7.3万kl少ない。

灯油は221.3万kl、前週差16.2万kl増。前年に対しては23.3万kl多い。

軽油は179.7万kl、前週差29.9万kl増。前年に対しては17.7万kl多い。

A重油は71.7万kl、前週差4.0万kl増。前年に対しては6.4万kl少ない。

C重油は197.5万kl、前週差4.5万kl増。前年に対しては8.7万kl多い。

(単位:千kl)

	今週 (8/17)	前週 (8/10)	前週比	
ガソリン	1,417	1,480	▼ -63	(-4%)
ジェット燃料	983	903	▲ 80	(9%)
灯油	2,213	2,051	▲ 162	(8%)
軽油	1,797	1,498	▲ 299	(20%)
A重油	717	677	▲ 40	(6%)
C重油	1,975	1,930	▲ 45	(2%)
合計	9,102	8,539	▲ 563	(6.6%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

8月13日～19日の原油価格は、前週比で値上がりし、為替レートは横ばいで、原油コストは値上がりしたと見られる。

陸上スポット価格は、8月6日～19日の間、ガソリン109～111円台で値下がり、軽油57～61円台で値下がり、灯油57～58円台で値下がりして推移した。海上スポット価格は、同期間で、ガソリン110～114円台で大きく値下がり後ほぼ横ばい、軽油60～63円台で大きく値下がり後ほぼ横ばい、灯

油51～54円台で大きく値下がり後回復して推移した。先物価格は、同期間で、ガソリン106～107円台で値下がり後一時回復するも値下がり、軽油60～63円台で大きく値下がり、灯油54～55円台で値下がり後一時回復するも値下がりして推移した。

次週の元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社0.5円の値上げとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

8月6日～12日の製品スポット市況は、7月30日～8月5日平均と比べ、全油種・全取引で大きく値下がり。直近の陸上スポット価格(8/6～8/12千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、前週比で、ガソリンは2.2円の値下がり、灯油は2.0円の値下がり、軽油は0.8円の値下がり。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、前週比で、ガソリンは2.5円の値下がり、灯油は3.7円の値下がり、軽油は1.7円の値下がり。先物価格は、前週比で、ガソリンが2.6円の値下がり、灯油は3.3円の値下がり、軽油は0.2円の値上がり。

8月13日～19日の製品スポット市況は、8月6日～12日平均と比べ、先物ガソリンを除く、全油種・全取引で値下がり。直近の陸上スポット価格(8/13～8/19千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、前週比で、ガソリンは1.2円の値下がり、灯油は1.1円の値下がり、軽油は2.3円の値下がり。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、前週比で、ガソリンは1.6円の値下がり、灯油は0.3円の値下がり、軽油は1.0円の値下がり。先物価格は、前週比で、ガソリンが0.2円の値上がり、灯油は0.2円の値下がり、軽油は1.1円の値上がり。

8月第3週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、3.0円～3.5円の値下げに分かれた。また、8月第4週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社0.5円の値上げとなった。

(RIM) (単位: 円/%)

陸上ローリー 4地区平均]	今週 (8/13～8/19)	前週 (8/6～8/12)	前週比
	レギュラー	55.4	56.6
灯油	57.2	58.3	▼ -1.1
軽油	58.5	60.8	▼ -2.3

(TOCOM) (単位: 円/%)

先物価格	今週 (8/13～8/19)	前週 (8/6～8/12)	前週比
	レギュラー	53.0	52.8
灯油	54.7	54.9	▼ -0.2
軽油	61.6	62.7	▼ -1.1

※上記価格は税抜き価格

参考値 (8/13～8/19実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -1.2	▲ 0.2	▼ -0.5
灯油	▼ -1.1	▼ -0.2	▼ -0.6
軽油	▼ -2.3	▼ -1.1	▼ -1.7
A重油	▼ -1.9		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バーージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

8月13日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.5円安の145.0円、軽油は同0.4円安の126.2円、灯油は18%ベースで同2円安の1,637円(1%ベースでは同0.2円安の90.9円)。都道府県別には、値上りが5県、横ばいが5都県、値下がり37道府県。全国最安値は埼玉県の139.4円(前週比0.8円安)、その次は、滋賀県の139.5円(同横ばい)、最高値は長崎県の156.6円(同0.6円安)。最も値上がりしたのは0.3円高の沖縄県(152.6円)・岩手県(142.6円)・宮城県(140.6円)、最も値下がりしたのは1.5円安の北海道(142.7円)。また、8月19日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.6円安の144.4円、軽油も同0.6円安の125.6円、灯油は18%ベースで同5円安の1,632円(1%ベースでは同0.2円安の90.7円)。ガソリンは4週連続の値下がり、軽油は3週連続の値下

がり、灯油は2週連続の値下がり。都道府県別には、値上りが2県、横ばいが4県、値下がり41都道府県。全国最安値は埼玉県の139.0円(前週比0.4円安)、その次は、滋賀県の139.1円(同0.4円安)、最高値は長崎県の156.6円(同横ばい)。最も値上がりしたのは0.5円高の鳥取県(142.2円)、最も値下がりしたのは1.6円安の静岡県(144.0円)。

先週の原油コストは大きく値下がりし、今週適用の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、3.0円～3.5円の値下げに分かれた。今週は、原油価格は値上がりし、為替レートはほぼ横ばいで、原油コストは値上がりした。次週適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社0.5円の値上げとなった。次週(8月26日)のガソリンの小売価格は、転嫁のタイムラグによる小幅な値下がり予想される。

(資工庁公表) (単位: 円/%)

[週動向]	今週 (8/19)	前週 (8/13)	前週比	直近高値
レギュラー	144.4	145.0	▼ -0.6	08/8/4 185.1
灯油	90.7	90.9	▼ -0.2	08/8/11 132.1
軽油	125.6	126.2	▼ -0.6	08/8/4 167.4

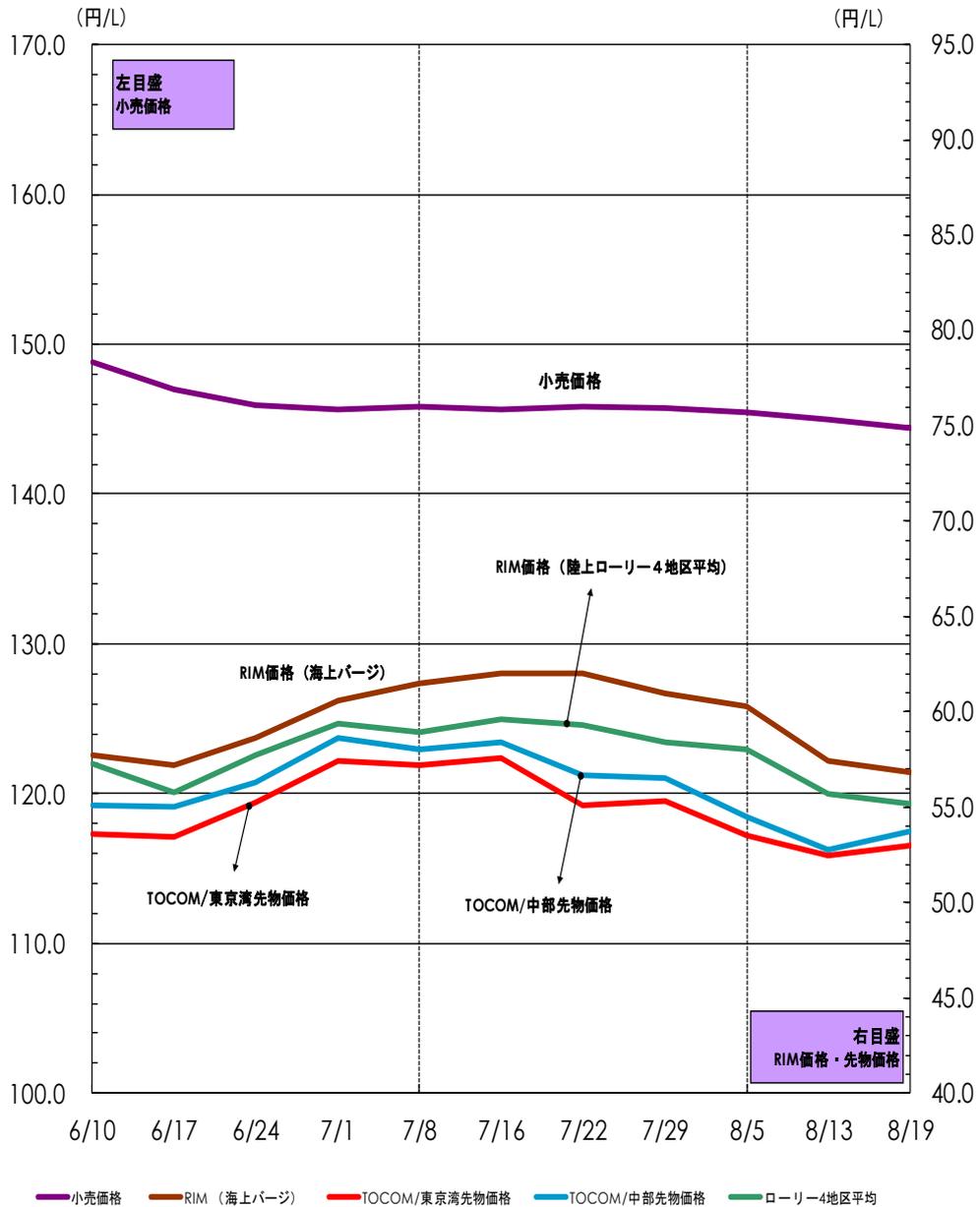
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2019/6/10 ~ 2019/8/19)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2019第20号)の公表は、8/30(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成31年3月末現在)は、7月31日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。